

光星ナイン「戦闘モード」

関西入り後、初練習に汗

第104回全国高校野球選手権大会に青森県代表として出場する八学光星ナインは2日、関西入り後の初練習を兵庫県西宮市内で行った。練習後、オンライン取材に応じた仲井宗基監督はチーム状態について「選手からは緊張感やワクワクが伝わってきた。戦闘モードに入ってきたかなと思う」と手応えを口にした。ナインは3日、大阪市内で行われる組み合わせ抽選会に臨む。ナインは1日午前3時半

ごろに八戸を出発し、バスで約14時間かけて大阪府内の宿舎に到着。2日は、西宮市鳴尾浜球場などで約3時間、シートノックや打撃練習などに汗を流した。練習中は移動の疲労もあって動きに精彩を欠いた部分もあったというが、仲井監督は「選手は意識して声を出し、足を動かしていた。良い練習ができた」とうなずいた。同日は甲子園球場の前を通りかかったといい、洗平歩人主将は「実際に球場を

見て実感が湧きつつあるが、浮足立つことなく、しっかりとやっていく」と話した。組み合わせ抽選会に向けたは「どこも強豪ばかり。気負わずに臨みたい」と平

常心で臨む考えを示した。一方、予断を許さないのが、新型コロナウイルス対策だ。出場校の中には、集団感染が確認されたケースもある。仲井監督は同校の選手は八戸を出発する前のPCR検査で全員陰性だったとしながらも、「これから何が分かるかわからない。ガイドラインに従ってしっかりと対策する」と表情を引き締めた。(福田駿)